

自らの生活を築く能力の育成

技術・家庭科 技術分野 中村正寛
家庭分野 鶴見昭子

1. テーマ設定にあたって

(1) 新学習指導要領との関連

新学習指導要領において中学校技術・家庭科の目標は次のように示されている。「生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。」

今回の改定で技術・家庭科は『生活の自立を図る』観点を特に重視している。進んで生活を工夫し創造することにより、自分の生活を主体的に営むことができることを最終的なねらいとしている。

自分らしさを大切にし、生活を主体的に営もうとする力を『生活に生きてはたらく力』と捉えて研究を進めることとした。

『生活に生きてはたらく力』は学んだことを応用して活かそうとすること、活かすことでもあり、このためには基礎的・基本的な学びがなければならない。技術・家庭科でいう基礎的・基本的な学習とは、生活に必要な知識や技術を生徒が自分で活用できるような学びであることを意味している。

本校の生徒を生活に必要な知識や技術の視点から見ると、多くの生徒は知識欲が旺盛で、思考・判断力には一定の能力が認められる。表現能力・発進力にも一定の能力がみいだせる。一方、日々の生活場면을直視すること、言いかえれば自分の感覚器官を通して得られる生活感や、自分の手足を使って創り出す事によって得られる技能などが欠落もしくは不足している点であると考えられる。

今年度の研究においては、単位時間ごとに学習目標を明確に把握させ、①生徒が課題意識を持って学習を進めていくこと。②基礎的な技能の習得を確かなものとしていくこと。③課題学習（計画立案→実践学習→レポート作成→発表 等）を可能な限り設定していくこと。として自らの生活を築く能力の育成の指導にあたっていきたい。

(2) 評価との関連

評価に関する研究は、評価をどのように進めていくかというところに主眼をおいた。授業という限られた時間の中では、行動の観察という評価方法を用いる場面が多くなるが、40人の生徒を同時に、しかも単位時間ごとに全て評価することは実際上不可能に近い。また、教師一人の判断にゆだねられることになりがちである。評価に客観性をもたせること。学習の持続や深まりを促すための評価であることを念頭に置くと、行動観察やその場面場面での言葉かけ等による指導評価を充実させることはもとより、自己評価・相互評価も加えながら有効な方法がないか追究していきたい。

2. 本年度の指導計画

(1) 必修

	前 期	後 期
1年	技術分野 B 情報とコンピュータ (1) 情報手段の役割 (2) コンピュータの基本構成と機能 (3) コンピュータの利用 (4) 情報通信ネットワーク	家庭分野 A 生活の自立と衣食住 (1) 中学生の栄養と食事 (2) 食品の選択と日常食の調理の基礎 (3) 衣服の選択と手入れ
2年	家庭分野 A 生活の自立と衣食住 (4) 室内環境の整備と住まい方 (5) 食生活の課題と調理の応用 B 家族と家庭生活 (1) 自分の成長と家族や家庭生活のかかわり (2) 幼児の発達と家族 (4) 家庭生活と消費	技術分野 A 技術とものづくり (1) 生活や産業と技術の役割 (2) 製作品の設計 (3) 工具や機械の使用法と加工技術 (4) 機械の仕組みと保守
3年	技術分野 A 技術とものづくり (6) 作物の栽培 家庭分野 B 家族と家庭生活 (3) 家庭と家族関係 (5) 幼児の生活と幼児の触れ合い (隔週で分野を交代している。)	

(2) 選択

2年	食材や食事にこだわり、健康で豊かな食生活『わたしのレシピ』を発信しよう。
3年	技術講座 自分だけのラジオや組み立て説明書を製作しよう。 家庭講座 幼児の生活に役立つものを創って幼児との交流を深めよう。 (前後期制で各期11回)

3. 技術分野における授業実践例

(1) 必修 B情報とコンピュータ (アプリケーションソフトの活用と応用)

① 生徒の実態と事前アンケート結果

昨今の家庭が保有するコンピュータの台数は、非常に多くなっている。本校の入学生も現1年生で、家族から使用許可をもらい家で操作している生徒は145名(91.2%)である。それゆえにローマ字入力やマウスなどの基本的操作方法や起動終了は、小学校で体験してきているためか、ほぼ全員が速さの違いはあるが操作ができる。また、インターネットへの接続可能な家庭は、80.5%である。

I 次の意味や操作方法を知っていますか。

知っているならば 1, 知らないときは 2, あやふやなときは 3 で答えなさい。

意味 (単位 %)

	ドラッグ	アプリケーション	カーソル
知っている	32.7	24.5	65.4
あやふや	17.6	45.3	21.4
知らない	49.7	29.6	13.2

操作方法 (単位 %)

	文章に写真を貼り付ける方法	文章に絵を貼り付ける方法	文章にグラフを貼り付ける方法	印刷の方法
知っている	48.4	46.5	27.0	71.7
あやふや	30.8	27.7	30.8	19.5
知らない	20.8	25.2	42.1	8.8

II 次の言葉をローマ字入力するときのアルファベットキーを答えなさい。

(単位 %)

	きつつき	カンナの花	附	属 中	学 校
ヘボン式	10.1	24.5	41.5	10.7	79.9
他の方法	86.8	73.6	55.3	82.4	1.9
誤答	0.0	0.6	0.0	0.0	0.6
無答	3.1	1.3	3.1	6.9	17.6

III 非常に長い文の中に、間違った部分がありました。カーソルは、文末にあります。次の文を変える操作方法を、かじょう書きにして書きなさい

誤 文

正 文

あいうえおさしくけこ →→→ あいうえおかきくけこ

(単位 %)

	1 種類	2 種類	3 種類	誤答・無答
種類数	34.0	8.2	1.3	56.6

	B S キー	Del キー	反転
方法	34.0	5.7	14.5

② 単元について

コンピュータの活用としては、いろいろな使用方法があるが、生徒が将来コンピュータを活用してレポートなどを作成することを仮定とし、その為必要な方法などを通して授業を進め、自ら創り出す事によって得られる技能の定着を試みた。

課題1は、「文章に表とグラフを貼り付ける」、課題2は「文字訂正の方法」のレポート作成とした。

③ 授業の流れ

アプリケーションソフトの活用と応用 17時間

- ・文章処理ソフトの操作
 - *文字入力練習・データの保存と読み込み・いろいろな表現・印刷
- ・表・計算ソフトの操作
 - *簡単な関数・グラフ表現
- ・文章への貼り付け
 - *グラフや表の貼り付け
- ・課題1 「文章に表とグラフを貼り付ける」
- ・課題2 「文字訂正の方法」の作成

④ 課題1

文字数約160文字に、各自に提示されたデータを基に、他のアプリケーションソフトで作成した表とグラフを貼り付けることを課題とした。

条件として、氏名の右寄せ、題目の中央寄せ、などとし制限時間を25分とした。(資料1)

結果として、制限時間が少し不足していたため、グラフや表の貼り付け操作は、出来るのだが、文字の折り返し作業に手間取っていた。文字数の打ち込みは、全文入力者は63.5%、120文字未満が23.3%、氏名の右寄せや題目の中央寄せなどは75%前後の生徒が出来ていた。

⑤ 課題2

「文字の訂正方法の説明書」作成を課題とした。

文字の訂正の方法を3通り考えさせ、その時々キー操作手順を各自の考えで、作成させた。条件は、各自が持っている技能をフルに出すこと。書式、氏名の右寄せ、題目の中央寄せ、用紙は2枚までとし、印刷まで行わせた。(資料2：作品例)

⑥ 評価項目

- ・生活や技術への関心・意欲・態度
 - ・処理に適したソフトウェアを調べようとしている。(授業観察・ノート)
 - ・データの貼り付け方を調べ操作しようとしている。(授業観察・ノート)
 - ・応用ソフトウェアを利用して簡単な情報の処理をしようとしている。(授業観察)
 - ・印刷の操作方法を調べ操作しようとしている。(授業観察)
 - ・目的に応じた応用ソフトウェアがなにかを調べようとしている。(授業観察・ノート)
- ・生活を工夫し創造する能力
 - ・応用ソフトウェアを利用して情報の処理の仕方を工夫している。(授業観察・作品)
 - ・印刷に適した機種を選び処理の仕方を工夫している。(作品)
 - ・目的や条件に応じてより適切な応用ソフトウェアの選択を工夫している。(作品)
- ・生活の技能
 - ・応用ソフトウェアの基本的な操作ができる。(授業観察・作品)
 - ・データの種類や特徴で使用する応用ソフトウェアを決めることができる。(授業観察)
 - ・他のデータの貼り付けができる。(作品)
 - ・印刷の操作ができる。(授業観察)
 - ・応用ソフトウェアの適切な操作ができる。(授業観察・作品)

- ・収集した情報を元にわかりやすく処理できる。(作品)
- ・作品の印刷やデータの保存ができる。(作品)
- ・生活や技術についての知識・理解
 - ・応用ソフトウェアの特徴と利用方法に関する知識について理解している。(ペーパーテスト)
 - ・作業エリアの各部の名称を知る。(ペーパーテスト)
 - ・応用ソフトウェアの操作に関する知識を身に付けている。(ペーパーテスト)
 - ・適切な応用ソフトウェアの操作に関する知識を身に付けている。(ペーパーテスト)

⑦ おわりに

もうすでに体験し知識として理解も持っている多数の生徒と、あまり触れる機会のない少数の生徒がいる。事前アンケート結果からは、その差は非常に大きく感じられる。しかし、多くの生徒は、操作は行ったことがあるが、操作に使用したキーの名称、画面に出てくる各部の名称や、表計算ソフトからグラフ作成への操作などを知っている生徒は皆無であった。課題1、課題2よりアプリケーションソフトを使い分けることを通してレポートの作成や、1年の総合的時間での活用することができると思われた。

(2) 選択 技術講座における授業実践例

① ねらい

「技術とものづくり」では、生徒の興味関心が深かった電子部品を使った工作的な事を行う時間がなくなってきた。それで、この選択講座で取り上げてみた。また、製作後、「組み立て説明書」をワープロソフトやその他のアプリケーションソフトを使い自由に作成させ、わかりやすい説明の方法を探ることにした。

② 授業の流れ

ラジオの仕組み…………… 1時間
 製作（組み立て中の写真撮影）…15時間
 説明書の作成…………… 6時間

③ おわりに

前期は男子6名女子1名が、受講した。電子部品の組み立て経験がないため初めのうちは恐る恐る行っていたが、時間がたつにつれ手際よく作業をこなしていった。説明書の作成は、生徒の思い思いの方法で編集しても良いこととしたため、デジカメで何度も同じ部品を取り直しながら構図を決める生徒や、ペインのソフトで図示する生徒もいた。ラジオ製作と思って意欲的に受講してきた生徒たちであったため、説明書の作成に意欲を挫くかと初めは危惧したが、そういうこともなく、意欲的に取り組んでいた。

(資料3：その作品例)

(3) 考察

評価方法には、いろいろな方法がある。観察評価は、当然であるが対象の生徒数が多いため、一時間の中でおこなうことは非常に困難であり。また、数時間にわたる場合は状況が違ってくるため評価はできにくい。作業中の技能評価は、できるだけ同一項目を複数回観察し補助簿に○×の記号を記入するように心がけたが、生徒からの質問などに返答していたり、項目以外の操作への支援などで、記録への記入が不完全に終わった物もある。ただ、表計算のとき、数値を7列のセルに記入する実技のときは、たまたま本校の教育実習期間だったため、生徒への支援は、教師が行い、観察は、教生にお願いできたため可能となった。

評価の対象としては、ノート、ワークシート、作品などから評価するか、授業中、グループごとの技能テストを設けて評価をおこなうなどの方法が考えられる。しかし、後者の場合は、授業時数との関係もあ

4. 家庭分野における授業実践例

はじめにの中でも述べたように、本校の生徒の実態をみると、家庭分野で特に育成したい能力は、

- ・五感を使って得られる生活感覚を大切にし、これらを基に自分の手足を使って、自らの生活を築いていく力。
- ・課題をもって学習を深めていこうとする実践的な学習継続力。

であると思われる。

教科の学習時間が削減された中で、課題を持って実践的な学習継続力を育成するためには教師側からの意図的・計画的な働きかけが必要となる。

本校の研究は評価を掲げて学習の本質に迫ろうとスタートした。初年度であり、手探りの状態ではあるが、2年前期の授業実践を記してみたい。

(1) 食生活の課題と調理の応用 ー楽しく豊かに食べるー

「家族のための食事づくり」

① 単元について

『家族のための食事づくり』は家庭の仕事を体験しよう。ということで「B家族と家庭生活」の学習と深く関わり、食事づくりに挑戦！は「A生活の自立と衣食住」の(1)、(2)を深化・発展させた課題学習と位置づけて設定した。限られた学習時間では不十分である、生活の自立のための学習を実践活動を通して深めること。一人ひとりの家庭の日常生活を身体を通して受け止め、手足を使って解決していこうとすることによって、ややもすると遊離、乖離が懸念される生活感覚を自らの力で少しでも取り戻させたいということが主なねらいである。

② 指導計画

	単元名及び目標	主な学習活動 学習項目	生活や技術への関 心・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術につい ての知識・理解
4 時 間	A(4)食生活の課題と 調理の応用 楽しく豊かに食べる 日常の食事をよりよ くしよう	①1日分の献立作成 ②昼食づくりに挑戦 課題学習(家庭学 習) ③課題学習の発表 ④よりよい食生活を めざして	①自分の食生活を チェックし、献立 作成に活かそうと している。 ②課題学習への取り 組み(計画～実践) に意欲的である。 ③実践活動を進んで 発表する。	①自分の課題を見つ ける。 ②課題の解決に工夫 する。 ③実践レポートを工 夫してわかりやす くまとめることが できる。 ④他の発表から。	①基礎的な調理技法 を身につけている。 ②ソフトを使って栄 養量を算出するこ とができる。 ③図や写真を使っ て実践レポートをつ くることができる。	①献立作成の基本要 素と手順が説明で きる。 ②献立チェックの方 法を記述すること ができる。 ③課題学習で見つ けた問題点とその解 決方法を具体的に 説明できる。 ④食習慣の形成の重 要性とその方法が 説明できる。 ⑤家庭の仕事の重要 性がいえる。
評 価 方 法 と 評 価 基 準	評価B		①食事記録 ②ワークシート ③実践レポート	①ワークシート ②実践レポート	①実践レポートの提 出	①ワークシート ②単元別テスト
	評価A		①実践レポート	①実践レポートの分 析 ②討議・発表内容の 分析	①実践レポートの分 析	①期末テスト
	評価Cに対する生徒への配慮事項		課題学習の取り組み 指導(具体例の提示 個別指導)	課題学習の取り組み 指導(具体案の例示)	課題学習の取り組み 指導	単元別テストの再テ スト

③ 学習展開における評価の実際

ワークシート i は A 4 縦長用紙で 1 年生からファイルされている。ワークシート i の記入を規準にレポート形式にし、報告発表会⇒提出という流れで設定した。

今回のような家庭における実践的な学習においては特に有効と思われる。

ワークシート i

僕（私）の家族のための食事づくり		組 番 _____
ご家庭の皆様へ “家庭の仕事を経験してみよう”“食事づくりに挑戦！”という2つの課題のもとに今回は 家族のための食事づくり を実際に行うことによって学習を深めたいと思います。ご協力のほどをよろしくお願いいたします。記入・記録をもとに6月18日（火）に報告・発表会といたします。この機会に、食事（食材、調理、環境）に関わる話しあい実践活動がご家族で深められ、楽しめたら幸いです。		
① 昼食の献立名	② 1) 今回の課題で特に、深めたいこと 2) その理由	
③ 取り組みの中で学んだこと、感じたこと、工夫点や苦勞した点等を、君の言葉で表現してみよう。		
④ できあがり記録してみよう。（写真や図 作業中や後始末の様子 食事風景等をふくむ）		
この枠内に取めなくてもよい。裏面や別紙の活用もよい。		
⑤ 家族の方からの意見や感想を書いてもらおう。（別紙を貼り付けてもよい）		

評価Bはワークシートの記入ができることとした。
評価Aは学習の深まりの結果がレポート形式に綴られ、内容に深まりが認められること。表現に創意・工夫がされていること。
評価Cは極力避けたい基準である。課題のヒントの提示を行い、かつ提出の催促を行うことで対処。

ワークシート ii の記入によって学習の取り組みや、成果を自己点検し、相互評価することで、少して

も客観的な評価がされること。一口コメントには、次の学習への励ましとなるような文言で記入することとした。

ワークシート ii

課題学習 ふりかえり，学習を深めよう！
僕（私）の家族のための食事づくり

_____ 組 _____ 番 _____

1. 自己評価（下の欄にはよい点を見つけ出して書こう）

課題の取り組み	私のこだわり・深めたいことが明確にいえる	学習の成果が自分の言葉でいえる
④ ③ ② ①	④ ③ ② ①	④ ③ ② ①

2. 友人の発表から学ぼう（お互いに評価しよう）

声の大きさ，速さ，
 間の置き方，視線，

発表者名 献立名	学 習 内 容	発 表 の し か た
	一口コメント	一口コメント
④③②①		④③②①

3. 発表（発表者のみ記入） 自己評価

自分の学習成果の発表は？	④ ③ ② ①	
--------------	---------	--

④ 課題 1

発表時間を3分と設定し，グループ内発表を予選とし，6名の発表を相互評価するという形式をとった。全員の発表は時間がかかること。発表に自信が持てず，学習成果の発表に至らない者もあり，他者の発表から学ぶという目的からも問題点があった。一方でグループから1名を選び出す困難さも認められた。

グループ内予選を客観的で効率的に進めるための基準チェック表の必要性が認められた。

選ばれた生徒はある程度自信をもって発表できたのは良かった。しかし全員が高めあい，認め合う学習，失敗やつまずきから学ぶといった側面からは問題点が残された。

課題 2

1年時のグループごとの“汁もの作りに挑戦”はソフトを使った栄養計算，ワークシートへの記録，記入，発表のしかた等に有効であった。生徒達が意欲的に取り組む調理実習を中心にすえて，栄養学習や，献立作成学習が効果的に進められる教材開発の必要性を再確認した。

課題 3

記録や表現の工夫となると写真などの活用は効果的である。そのために学校のデジタルカメラの貸し出しも受付けた。被服室には10台のコンピュータが設置されている。食事診断ソフトの活用も比較的にスムーズに行える環境にある。しかし，めんどうだから使わないという生徒も見られる。1年技術分野での情報教育はもとより，他分野や他教科，総合学習での成果を十分に活かす指導も工夫していきたい。

(2) 私たちの消費生活 ー環境に配慮して自立した消費者になろうー

「磯野家の消費生活」

① 単元について

この単元は「B家族と家庭生活」の中に位置づけられ、全ての生徒が履修する単元である。最近の消費者をめぐる問題は、小中学生などの若年層におよんでいる。また、資源の持続安定活用や、環境保全に対しての積極的な働きかけは、生活者としての当然の義務であるという、社会的な共通理解を得るに至っている。

県内では中学1年生を対象とした副読本が配布され、環境を意識した自立した消費者を育成する消費者教育を推進している。

とはいうものの消費者としての意識や、環境への配慮は家庭や地域の意識や考え、規制に委ねられている場面が多い。40人の学習者が課題意識を持ち、学習が確かなものとなることをねらいとして「磯野家の消費生活」を設定し、能動的な学習展開を試みた。

② 指導計画

	単元名及び目標	主な学習活動または学習項目	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
3時間	B4わたしたちの消費生活 1. 商品の選択と購入	(1)選択の条件 (2)販売方法と支払方法 (3)トラブルの解決	①商品の選択・入手の方法に関心がある。 ②販売方法や支払方法に関心がある。 ③消費者保護について、関心をもつ。 ④商品の選択・購入に必要なさまざまな課題について考えようとしている。	①通信販売など中学生に関わりが深いことを理解して、適切な方法で購入することを考える。 ②商品入手のための情報収集に工夫する。 ③情報や表示、マークなどを読み取り目的にあった商品入手を考える。 ④消費者として適切な行動が取れるように、家庭生活を工夫する。	①身近な物資・サービスについて品質を見分けることができる。商品情報を活用した選択ができる。 ②消費者行動について例を示す。 ④商品入手プロセスを示すことができる。	①商品選択に必要な基礎知識を具体的にいえる。 ②販売方法の種類とそれぞれの特徴が説明できる。 ③支払方法の種類と特徴がいえる。 ④契約について説明できる。 ⑤消費者を守るための法律について理解する。 ⑥消費者の義務・責任について説明することができる。
4時間	B4わたしたちの消費生活 2 消費生活と環境	(1)生活の工夫でごみを減らそう (2)環境に配慮した商品選択をしよう	②環境に配慮した生活に関心を持つ。 ③環境への負荷の少ない生活をしようとする。	①消費生活が環境に与える影響を事例から調べる。 ②環境への負荷が少ない生活を工夫する。 ③ごみ減量化の生活を工夫する。	①ごみの減量化や分別収集の方法を考えながら適切なごみ処理を行うことができる。 ②リサイクルやリユースを家庭で実践できる。	①ごみ減量化の必要性(環境負荷、省資源)が説明できる。 ②ごみ減量化の具体的方法を言葉や図・表を使って説明することができる。 ②消費生活と環境を社会科学的な視点から言葉や図・表を使って説明することができる。
	(評価B)		①ワークシート ②授業、机間巡視で観察 ③発言分析	①ワークシート ②発表分析	①ワークシート ②単元別テスト	①ワークシート ②単元別テスト
	(評価A)		①ワークシートの発展課題	①ワークシート実践記録 ②期末テスト ③資料	①ワークシート実践記録 ②期末テスト	①ワークシートの発展課題 ②期末テスト
	(評価Cに対する生徒への配慮事項)			①ワークシート記入指導	①ワークシート記入の例示	①単元別テストの再テスト

③ 学習展開における評価の実際

生活者の視点を活かした場面を設定し、主体的に学習を進める。ここではロールプレイや擬似体験、ディベート的手法などを取り入れた学習を展開した。主な活動は次のようである。

- ・サザエ、おフネの商業 WATCHING
- ・カツオとワカメのはじめての買い物
- ・磯野家のゴミを減らすぞ！大作戦
- ・スーパーサザエさん—Green Consumer になろう—

ワークシート iii

コマーシャル WATCHING 組 番

CM を調べよう
番組のタイトルが出てから番組が始まる直前までの間に流れる CM を調査します

No.	商品の名前	種類	時間	ターゲット	内容や作り方で気が付いたこと

一番印象に残っている CM は？ その理由

洗濯用洗剤の選び方について、サザエさんとおフネのやり取り（ロールプレイ）を見て気づいたこととしてみよう。

↓

企業の戦略は？ 消費者としてどのようにしたらよいか

--	--

現代版 **カツオとワカメの** _____ 組 番 _____


《初めて買い物》 ~Tシャツを買いに行こう~

《上手な買い物の仕方を考えてみよう!》

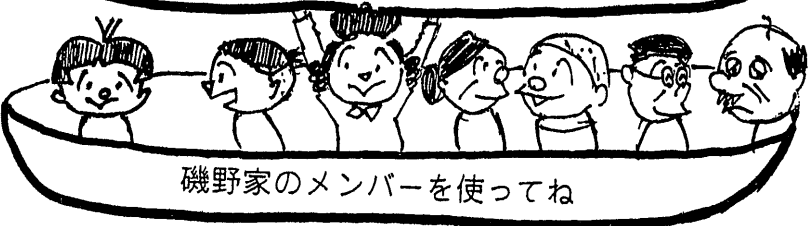
上手に買い物をしていると思われることを「よい点」に,もっとこういうところを気を付けたらいいと思うことを改善点に書こう。

	店名,値段, 服の特徴	よい点	改善点
ツオ	・ ・ ・		
氏名			
ワカメ	・ ・ ・		
氏名			

_____ 組 番 _____

磯野家の 

ゴミを減らすぞ!大作戦!



磯野家のメンバーを使ってね

班ごとにゴミを減らすために工夫できることを考えて,みんなに教えてあげよう。

ワークシートの記入は学習結果の記録に限ったことではなく、むしろロールプレイのシナリオ原稿や、そのもととなる意見などの書き込み用紙としての活用が多い。動的な学習活動が中心のここでの評価は行動観察が中心である。同時に何人もの行動をチェックすることは不可能である。演ずる側と聴衆側という側面もある。役割分担を固定的に考えずないような指導が必要である。

③ 課題 1

生徒の考えや行動を中心にすえて進めていく学習形態においては時間設定や条件事項（論議事項）の明確化、制限事項をある程度指示はするものの教師のねらいどおりの展開がなされるとは限らない。失敗やつまづきからの学びを含めて、教師側に学習（評価）のねらいを明確にする必要がある。

課題 2

私たちの消費生活は「B家族と家庭生活」に位置づけられている。家庭分野の学習時間の中で効果的に進めるときは「A生活の自立と衣食住」との関連を意識させて進めることで、確かな学力へとつなげていくと効果があると思われる。家庭分野の学習計画全体の中での再構築が課題である。

(3) 今後の課題

学習の目標があり、目標にそった具体的な評価方法が用意され、楽しく学べること。その結果として学んだことが役にたったと実感される家庭科の学習が求められている。そのいずれもが活かされるには評価規準は勿論であるが、具体的で実効性のある評価が必要である。評価研究のスタートで試行錯誤の連続である。題材や学習展開の仕方によっても評価方法は異なってくる。ワークシートの提出それ自体を評価の対象にして学習の継続につなげたこともある。ワークシートの記述分析をする中で、ワークシートの作り変えや改良に至ったこともあり、ワークシートひとつをとっても教師の指導のあり方が問われることが実感された。

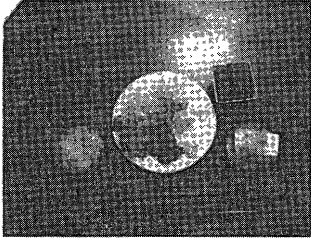


「私たちの消費生活」においては生徒が能動的に課題解決を行うプロセスとしての学習の方向性が見いだせたことは成果である。意図的・計画的学習として成立させたい。

同時進行同一評価は不可能と知りつつも客観性や平等性を払拭しきれないままに、かえって中途半端な行動観察、チェックとなったことも反省点である。

今年度前期の反省にたって「私たちの消費生活」単元の学習を家庭分野の学習全体の中でどのようにすすめて行くのがよいか追究していきたい。

(4) 家庭分野資料

課題学習 レポートの一部

2 組 番

食事づくりに挑戦!”という学習課題のもとに今回は
って学習を深めたいと思います。ご協力のほどをよろ
18日(火)に報告・発表会といたします。この機会
がご家族で探められ、楽しめたら幸いです。宜しくお

C特に、深めたいこと 2) その理由

① 全員の好きなものを全て入れて料理
する。 ③ 時間を
ハロスも気をつける。 ④ グラフにはい

① 何よりもおいしく食べたい
② ①からなるが、はやり方がいいと見ながら。
点や苦労した点等を、君の言葉で表現してみよう。

②のものがすぐにするのは不可行だと
して思いました。和・洋が混ざり
た料理はいいかと思いました。
③の1の、いろいろなものを分けて
食べる。④の、ハロスも気をつける。
⑤の、①②③④⑤と決めていきます。(⑤は④の
①や②の後の様子 家族での食事風景等をふくむ)

※④が1日と決まれば、あとは
①②③④⑤と決めて、あとは
①②③④⑤と決まれば、あとは

① ハロス
② 水1.5ℓ ⑦ ⑩
③ 夕飯
④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫

①紙を貼り付けてもよい)

載してくれたのか、父親の好きな料理
も載って挑戦してくれました。と、
①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫
①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫
①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫
①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫

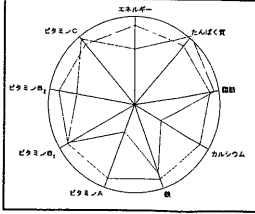
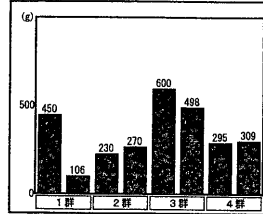
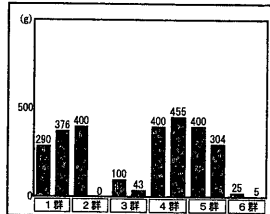
① 料理がおいしく

② ハロスも気をつける

③ いろいろなものを分けて食べる

課題学習 レポートの一部

学校名	金大付属中学校			
学年	年 組 番			
氏名				
診断者の情報				
年齢	性別	身長	体重	生活活動強度
14歳	女	161cm	kg	重い
ファイル名	みき			
印刷の対象	1日分			

1日分	エネルギー (kcal)	たんぱく質 (g)	脂肪 (g)	糖質 (g)	カルシウム (mg)	鉄 (mg)	ビタミンA (IU)	ビタミンB ₁ (mg)	ビタミンB ₂ (mg)	ビタミンC (mg)	ビタミンD (IU)	食塩 (g)	食物繊維 (g)
合計	1634	86.2	67.0	163.0	279	11.0	673	0.89	0.99	54	40	12.1	10.5
標準	2300	75.0	63.9	443.8	700	12.0	1800	0.90	1.30	50	100	10.0	23.0

夕食													
料理名	エネルギー (kcal)	たんぱく質 (g)	脂肪 (g)	糖質 (g)	カルシウム (mg)	鉄 (mg)	ビタミンA (IU)	ビタミンB ₁ (mg)	ビタミンB ₂ (mg)	ビタミンC (mg)	ビタミンD (IU)	食塩 (g)	食物繊維 (g)
ギョーザ	652	29.9	23.7	76.5	80	3.4	9	0.35	0.24	27	0	3.6	4.6
肉団子	267	16.4	17.5	11.1	54	2.7	5	0.25	0.18	14	0	3.2	2.9
チャーハン	524	26.4	14.7	65.9	74	3.0	514	0.13	0.43	7	40	0.4	1.4
グリーンサラダ	75	1.8	5.2	4.9	23	0.6	98	0.05	0.06	5	0	1.9	1.3
肉団子のスープ	116	11.7	6.0	4.6	48	1.4	46	0.11	0.08	1	0	3.1	0.4
合計	1634	86.2	67.0	163.0	279	11.0	673	0.89	0.99	54	40	12.1	10.5

カツオ・ワカメTシャツを買う



磯野家のゴミを減らすぞ！大作戦



Green Consumer になろう

